

ヘルスマーター

好酸球性副鼻腔炎について

好酸球性副鼻腔炎は、両側の鼻の中に多発性の鼻茸^{はなたけ}(鼻ポリープ)ができ、手術をしてもすぐに再発する難治性の慢性副鼻腔炎(蓄膿症)です。

好酸球性副鼻腔炎の中等症・重症の人は、日本に約2万人いるとされています。好酸球性副鼻腔炎の方は嗅覚障害^{きゅうかく}(匂いが分からない)、鼻茸を伴うことが多く、鼻茸が大きくなると鼻閉(鼻づまり)症状が出てきます。また、好酸球性副鼻腔炎の患者さんの多くがぜんそくを合併しています。場合によっては好酸球性中耳炎を合併することもあります。好酸球性副鼻腔炎は難治性のため指定難病になっています。

好酸球性副鼻腔炎の治療

外来で検査をした後、好酸球性副鼻腔炎を疑う場合、まず手術を行い、その後薬物療法を行うことが多いです。

手術方法は内視鏡を用いた手術を行います。これで一旦鼻茸を完全に取ります。しかし、術後6年程の間に約半数の人が再発するとされています。このため、術後は鼻の洗浄と薬物療法を行いながら、鼻の様子を見ていきます。

薬物療法は抗アレルギー薬やステロイド薬を使います。ただしステロイド薬の飲み薬(経口ステロイド薬)を長期間使うと、骨がもろくなったり、免疫力が低下する等の副作用が起こることがあります。

新たな治療薬として分子標的薬の「デュピルマブ」が登場し、2020年3月に健康保険が適用されました。自己注射で使用するタイプの注射薬で、好酸球性副鼻腔炎の新たな治療法として期待されています。市立病院でも重症な患者さんへ投与を行っています。

匂いが分かりにくい、鼻づまりがある、という場合には、かかりつけの先生、または専門医にご相談ください。